

平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宮の原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年	国語	229人	社会	228人	数学	229人
	理科	228人	英語	229人		

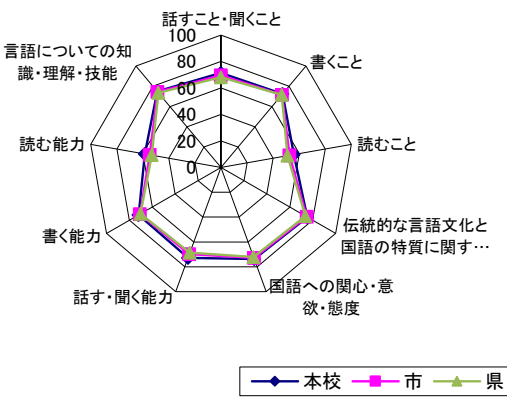
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	71.4	69.6	68.2
	書くこと	72.5	71.7	71.5
	読むこと	55.8	52.6	51.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.3	74.8	73.7
観点	国語への関心・意欲・態度	73.7	72.8	72.1
	話す・聞く能力	72.9	69.9	68.7
	書く能力	71.9	70.7	70.3
	読む能力	58.4	54.7	53.1
	言語についての知識・理解・技能	74.9	74.5	73.5



★指導の工夫と改善

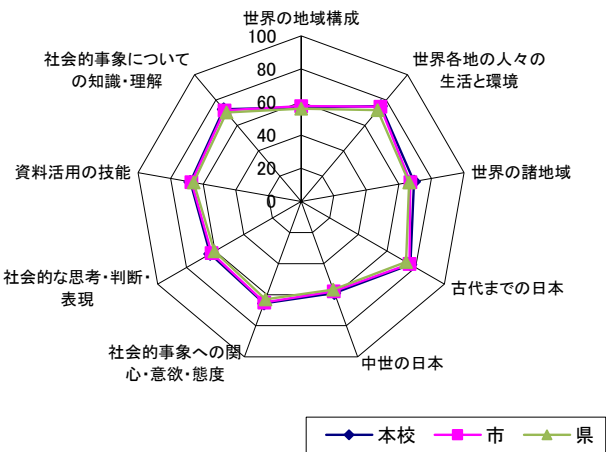
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○市平均を1.8ポイント、県平均を3.2ポイント上回っている。 ●「話の内容を正確に聞き取ることができる」では、市平均を0.7ポイント下回った。 ○「話し合いの話題をとらえて、相手の発言を注意して聞くことができる」では、市平均を9.6ポイント上回った。	・「話の内容を正確に聞き取る」という設問のみ、市平均を下回った。話の大筋をとらえるだけではなく、細かな内容にまで注意をさせる。
書くこと	○市平均を0.8ポイント、県平均を1.0ポイント上回っている。 ○「書いた文章を読み返し、わかりやすい文章にすることができる」では7.9ポイント、「材料を分類して整理したうえで、文章の構成について意見を述べることができる」では、11.1ポイント市平均を上回った。 ●作文では、すべての項目において市平均を下回った。	・作文に対する苦手意識が顕著になった結果である。授業でも型にはめた作文構成を指導したり、生徒の語彙力を増やすなどして、作文に対する苦手意識を取り去りたい。
読むこと	○市平均を3.7ポイント、県平均を4.7ポイント上回っている。 ●「文章の構成や展開をとらえることができる」では、市平均を2.8ポイント下回った。	・市の平均を下回った設問は1問だけであったのに対し、5ポイント以上上回った設問は4問あった。授業では、接続表現に注意させながら、市平均を下回った「文章の構成や展開をとらえることができる」をさらに丁寧に指導していきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○市平均を0.5ポイント、県平均を1.6ポイント上回っている。 ●「漢字を書く」設問では、11.9ポイントも市平均より下回った設問があった。	・全設問を見ても10ポイント以上、市平均を下回ったものは「漢字を書くこと」だけだった。授業でも新出漢字の指導はしているが、習った漢字は正確に書かせるなど日頃から細かな指導をしていく。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	56.9	57.6	56.0
	世界各地の人々の生活と環境	75.1	74.6	71.9
	世界の諸地域	69.3	67.0	66.3
	古代までの日本	76.2	75.7	73.3
	中世の日本	58.9	57.9	56.7
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	65.6	65.0	63.0
	社会的な思考・判断・表現	63.4	62.5	60.5
	資料活用・技能	67.9	67.2	65.9
	社会的事象についての知識・理解	72.7	71.8	70.1



★指導の工夫と改善

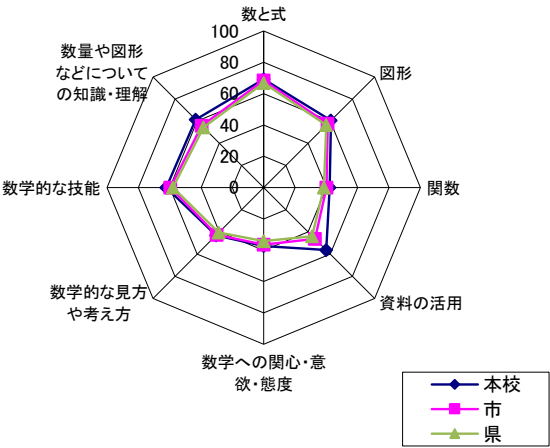
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	●県の平均より0.9ポイント上回っているが、市の平均より0.7ポイント下回っている。 ○世界の地域区分への理解や、地図の特徴把握についてはそれぞれ県の平均を3ポイント以上上回っている。 ●地図中の緯度、経度の読み取りは県の平均を3.6ポイント下回っている。	・資料活用・技能を身に付けるため、今後は授業内でより一層地図帳を活用し、資料を読み取り考える授業を行っていく。
世界各地の人々の生活と環境	○県の平均を3.2ポイント、市の平均を0.5ポイント上回っている。 ○世界各地の生活の様子を問う問題では、県の平均を約12ポイント上回っている。また、世界の宗教分布について問う問題では、正答率が95.6%と高い。 ●雨温図から気候帯を判断する問題では県の平均より5.1ポイント下回っている。	・複数の資料やグラフをもとに判断する能力を向上させるため、既習の知識を活用し、資料を読み取る力を育成する必要がある。特に、雨温図の読み取りは各地域の産業や生活の理解にも大きく関わってくるため、「なぜそうなるのか」を気付かせる授業を展開していく。
世界の諸地域	○県の平均より3.0ポイント、市の平均より2.3ポイント上回っている。 ○アメリカ合衆国やオーストラリアに関する設問では県の平均を5ポイント以上上回っている。 ●ヨーロッパ州について複数の資料をもとに考察する設問では、正答率が43.0%と低い。	・上記の2つと同様に、資料を読み取る力の育成が必要である。日頃から地図を含めた資料に慣れさせることで、抵抗を取り払いたい。
古代までの日本	○県の平均より2.9ポイント、市の平均より0.5ポイント上回っている。 ○打製石器の役割や縄文土器に関する設問は正答率が90%を上回っている。 ●古代文明の特徴を問う問題では、県の平均より1.4ポイント下回っている。	・世界史の内容については、中学校で初めて学習するため知識が定着していないと考えられる。どのようなところに、どのような文明が発達したのかを表にしてまとめるなど、知識を整理する方法を指導し、定着を図る。
中世の日本	○県の平均より2.2ポイント、市の平均より1.0ポイント上回っている。 ○ほぼすべての設問で県の平均を上回っている。 ●時代区分に関する問題では、県の平均を3.8ポイント下回っている。	・文章で解答する問題の正答率が低いいため、授業内で短文で書かせる内容を題して抵抗感を減らすとともに、学習内容をもとに自分の言葉でまとめる習慣をつけさせる。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	69.2	68.4	66.8
	図形	60.7	57.8	56.5
	関数	42.1	40.1	38.5
	資料の活用	56.3	46.3	43.8
観点	数学への関心・意欲・態度	37.3	36.4	34.1
	数学的な見方や考え方	43.0	42.5	40.5
	数学的な技能	62.2	59.6	57.9
	数量や図形などについての知識・理解	61.4	56.0	54.3



★指導の工夫と改善

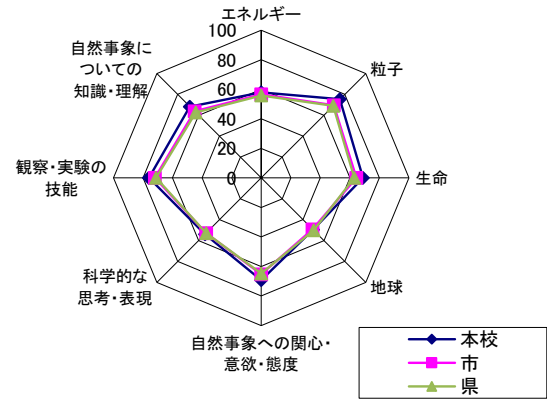
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○1次式の減法については正答率が68.0%で市の平均より4.9ポイント高い。 ○絶対値については正答率が92.1%で市平均より5.4ポイント高い。 ●与えられた文章題を1次方程式を立式して解く問題では正答率が36.4%と市平均より9.5ポイント下回っている。	・数と式の領域における正答率は全体として高いが、文章題を立式し、解く問題の正答率が低いので、活用問題を多く取り入れながら確実に解けるようにしていく。
図形	○回転体についての正答率は88.6%で市平均より8.3ポイント高い。 ○同じ底面で高さも等しい柱体と錐体の体積の関係についての正答率は72.4%で市平均より11.8ポイント高い。 ●回転移動させたときの回転の角の大きさについての正答率は59.6%で市平均より4.4ポイント下回っている。	・図形の領域における正答率は全体として高いが、知識理解があいまいなところが見られる。基礎的な問題を多く取り入れることで知識の定着を図る。
関数	○比例のグラフの正答率は48.7%で市平均より5.7ポイント高い。 ●与えられた式から問題を解決する方法を数学的に説明する問題では市平均より5.4ポイント低い。	・記述問題での正答率が低いので、根拠を記述させる機会を多く設定し、記述問題への抵抗感や、苦手意識を減らせるように授業を工夫する。
資料の活用	○真の値の範囲については正答率が70.2%で市平均より19.1ポイント高い。 ○資料の範囲については正答率が75.0%で市平均より18.3%高い。 ●度数折れ線の特徴を読み取り、説明すべきことについて数学的に説明する問いについては市平均より2ポイント低い。	・資料の活用の領域では市平均より10ポイント高く、理解度が高いが、数学的に説明することについては市平均より低くなっているため、資料を分析し、根拠を明らかにして説明する力を付けられるようにする。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	57.9	56.6	55.8
	粒子	75.3	69.6	69.0
	生命	68.9	64.4	63.0
	地球	49.6	49.2	50.2
観点	自然事象への関心・意欲・態度	69.2	65.2	64.7
	科学的な思考・表現	53.9	52.8	52.8
	観察・実験の技能	76.0	72.0	71.2
	自然事象についての知識・理解	68.3	63.7	62.7



★指導の工夫と改善

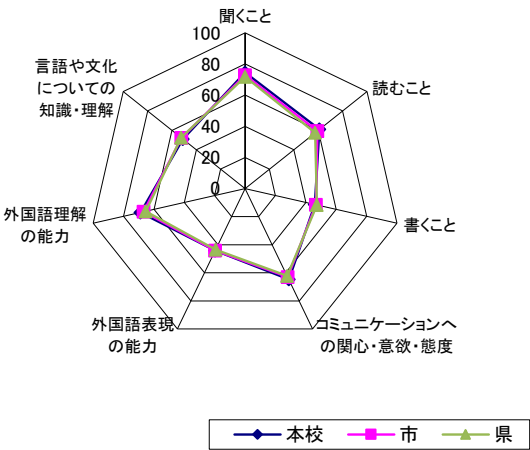
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○市の平均より1.3ポイント、県の平均より2.1ポイント上回っていた。 ○「面積の大きさと圧力の大きさの関係を理解している」では県の平均より14.2ポイント上回っていた。 ●「おもりがばねを引く力を矢印で表すことができる」では県の平均より11.7ポイント下回っていた。	・物体に力を加えている物体、力の種類、向きを考えさせる。 ・物体にはたらく力を矢印で記入する際、作用点を力をはたらかせる物体上にかく生徒がいるので、作用点は必ず力を受ける物体上にあると考えることをしっかり理解させる。
粒子	○市の平均より5.7ポイント、県の平均より6.3ポイント上回っていた。 ○「質量パーセント濃度の求め方を理解している」では県の平均より13.1ポイント上回っていた。 ●「砂糖とかたくり粉を区別する実験を説明することができる」では県の平均より3.6ポイント下回っていた。	・物質の性質を調べるために、においをかぐ、手ざわり、水への溶け方、加熱するなど、様々な方法で比較し、物質の特徴をまとめられるよう支援する。
生命	○市の平均より4.5ポイント、県の平均より5.9ポイント上回っていた。 ○「コケ植物とシダ植物を分類する特徴を理解している」では県の平均より11.4ポイント上回っていた。 ○「ルーペを正しく使うことができる」では県の平均より7.3ポイント上回っていた。	・身近な生命についての観察・実験を通して、生物の調べ方の基礎を学習するとともに、植物や動物の体のつくりやそのはたらきを理解させ、生命の世界について総合的な認識を高めさせる。
地球	○市の平均より0.4ポイント上回っていた。 ○「岩石のスケッチの正しくないかき方を指摘できる」では県の平均より6.2ポイント上回っていた。 ●県の平均より0.6ポイント下回っていた。 ●「岩石の特徴から岩石の種類を同定できる」では県の平均より6.3ポイント下回っていた。	・含まれる鉱物の種類や量によって色が異なり、これらの違いから火成岩を分ける。鉱物組成と化学組成の分類表を配布し、岩石の種類を判別する。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	74.5	72.8	71.8
	読むこと	61.0	59.4	57.5
	書くこと	46.0	46.6	47.3
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	64.7	63.0	62.2
	外国語表現の能力	44.1	44.2	43.6
	外国語理解の能力	68.8	66.8	65.4
	言語や文化についての知識・理解	51.0	52.3	52.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○本校平均正答率は、市の平均より1.7ポイント、県の平均より2.7ポイント上回っている。 ○「英文の要点を聞き取ることができる」かどうかの問題では県の平均より8ポイント上回っている。 ●「対話の内容を聞き取り、絵をもとに英語で答えることができる」かどうか記述で答える問題は県より3.2ポイント下回っている。	・今後も英語でのやりとりを中心とした授業展開を心がけ、授業の中で英語を聞くこと、話すことができる機会を多く設ける。 ・ALTを活用し、英語を使う意欲を喚起するとともに、英語を使う場面を多く取り入れる。 ・リスニングテストなどを増やし、まとまりのある英文の聞き取りを多く取り入れる。
読むこと	○本校平均正答率は、市の平均より1.6ポイント、県の平均より3.5ポイント上回っている。 ○長文の読み取りで、「メールの内容を把握することができる」かどうかの問題では県の平均より9.2ポイント上回っている。 ●「否定の命令文の語形・語法を理解することができる」かどうかの問題では県の平均より3.2ポイント下回っている。	・さまざまな英文の語形・語法の知識、理解力不足が見られるので、対話文の流れをつかむことができるよう、さまざまな疑問文を授業内で取り入れていく。 ・長文では、まず大まかな流れをつかみ、内容理解を重視して読解力を高めていく。授業内ではQ&AやTFなどを取り入れ、内容を把握する演習をする。
書くこと	●本校平均正答率は、市の平均より0.6ポイント、県の平均より1.3ポイント下回っている。 特に、書く問題では、一部の単語に関しては県の平均を大きく下回った単語もあった。 ○英文を正しい語順で書くことができるかどうかの問題では、現在進行形の否定文では6.9ポイント、一般動詞の過去の疑問文では6.6ポイント上回っている。	・まずは、単語・連語や教科書の基本表現を繰り返し書かせ、暗記する演習を行う。さらに確認テストを充実させる。 ・3文～5文程度のまとまりのある英作文はテーマを与えて書かせ、一人一人添削をし、正しい表現を書く力を身に付けさせる。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の予習をしている」の肯定的回答の割合は55.7%で、市町村(51.7)や県(46.5)をやや上回った。

●「家で、学校の授業の復習をしている」の肯定的回答の割合は61.8%で市町村(74.9)や県(75.1)を大きく下回った。否定的回答の割合38.1%は約90人の生徒が該当することになる。

●「家で、学校の宿題をしている」と回答した生徒の割合は69.7%で、市町村(79.1)や県(78.4)を大きく下回った。「どちらかといえば、はい」と答えた23.2%を含めた30%の生徒は、学校の休み時間等で間に合わせてしまうことが予想される。

●「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」の否定的回答の割合は43.8%で、市町村(36.0)や県(34.4)を大きく上回っている。

●学校の授業時間以外の学習時間については、ふだんでは、「30分より少ない」と「全くしない」と回答した生徒の割合が14.5%で約35人。市町村(8.1)や県(7.4)を上回っている。学校が休みの日には、「1時間より少ない」と「全くしない」と回答した生徒の割合が31.1%で約75人。市町村(23.3)や県(21.5)を大きく上回った。

○「学校の宿題は、やりたくなる内容だ。」の否定的回答の割合は59.7%であり、「量的にも多い」と回答した生徒の割合が22.4%であったが、「学校の宿題は、自分のためになっている」の肯定的回答の割合は89.5%と高かった。

まだまだ家庭学習の習慣化が不十分であり、今後も習慣化に向けて意識の向上を図る必要がある。家庭学習の指導を重点的に行う期間を設けて、保護者に取組の確認を依頼するなど、家庭と連携を図りながら、生徒が自主的に家庭学習に取り組めるように指導をしていきたい。

○「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」と回答した生徒の割合は59.6%で市町村(55.5)や県(53.5)を上回った。肯定的回答の割合が91.2%と高い。

○「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」と回答した生徒の割合は63.2%で市町村(54.7)や県(59.8)を上回った。肯定的回答の割合が93.9%と高い。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」の肯定的回答の割合が69.7%と高い。市町村(65.2)や県(60.5)を上回った。

○「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」と回答した生徒の割合は37.7%で市町村(31.6)や県(28.7)を上回った。

自分の考えを説明したり少人数で話し合ったりする活動を効果的に取り入れる授業づくりを工夫している成果が表れている。今後は、一人一人の意見をつなぐコーディネートに留意した話し合いの充実に努めていきたい。

○「将来の夢や目標をもっている」の肯定的回答の割合が82.9%で市町村(75.0)や県(73.9)を上回った。

○「自分のよさを人のために生かしたいと思う」と回答した生徒の割合は65.4%で市町村(59.2)や県(53.3)を上回った。

○「誰に対しても、思いやりの心をもって接している」と回答した生徒の割合は60.1%で、市町村(51.3)や県(49.7)を大きく上回った。

生徒の発達段階に応じて組織的・系統的に進めているキャリア教育の成果が表れている。生徒自身が自分の特性を理解し、進路の情報を確かめながら将来を設計し、実現に向けて努力する態度を育てていきたい。

学校全体で生徒を認め励ます教育を推進するとともに、友だちのよさを伝え合う活動などを実施して自尊感情の育成に努めていきたい。

今後とも、学校と家庭が連携して生徒の努力や成長を見守りよさを伸ばす指導を継続し、自己肯定感を高め、何事にも前向きに考え取り組める生徒の育成を図っていきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・授業のねらいの明確化 ・学業指導の充実 ・家庭学習の習慣化	・ねらい提示と振り返りを行う。 ・チャイム前着席や態度の指導を行う。 ・課題の提出を徹底させる。	・学習内容の明確化は、概ね徹底できている。 ・授業に集中して学習することができている。 ・家庭学習の習慣化は、まだ不十分である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・話し合い活動は比較的良好であるが、文章に書いてまとめる表現力が課題	・「主体的・対話的で深い学び」の推進	・話し合い活動の中で、自分の考えを文章にまとめて説明させる機会を多く設定していく。